

キヤノン製EOSデジタル一眼レフカメラ用  
ニコン製デジタル一眼レフカメラ用  
ソニー製デジタル一眼レフカメラ用

## 取扱説明書

## INSTRUCTION MANUAL

Nissin Di622 MARK IIをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

Di622 MARK IIは、

- キヤノン製EOSデジタル一眼レフカメラのE-TTL II\*1およびE-TTL\*1自動調光システムまたは、
- ニコン製デジタル一眼レフカメラのi-TTL\*2 i-TTL-BL\*2自動調光システムまたは、
- ソニー製デジタル一眼レフカメラのADI、P-TTL\*3自動調光システム

に対応するデジタルストロボです。

本機をカメラに装着するだけで、カメラからの通信により自動的に光をコントロールすることができます。

また、本機はスレーブおよびワイヤレスTTLリモートを搭載しており、カメラから離れた場所でシンクロさせることができ、ライティングの幅を大きく広げることができます。

ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、内容をご理解の上、正しくご使用いただきますようお願いいたします。

## 安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。

<b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電したり、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。
<b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。

### 警告

- 本機は高電圧の部品を使用していますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社サービスステーションかまたは、ご購入されたお店にお持ちください。
- 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
- 人の目の前（特に乳幼児）に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
- コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入った場合は、火災、感電または傷害の原因になります。
- 本機は防水ではないので、雨がかかる場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
- 自動車など40℃を超えるような高温になる場所に放置しないでください。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。

### 注意

- 電池を高熱にさらさないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。

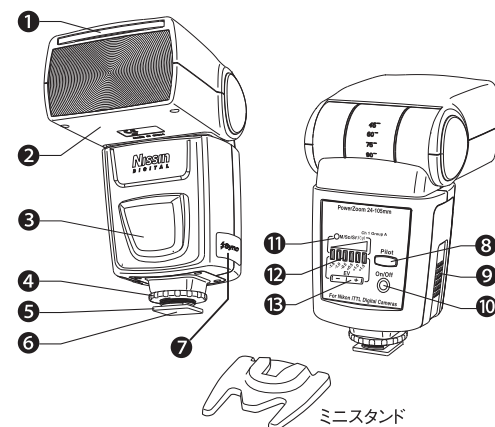
### その他の注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

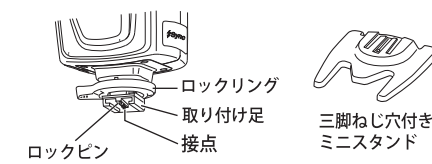
- 対応カメラについては、弊社ホームページでご確認ください。

<http://www.nissin-japan.com>

## ■各部名称



### ●ソニー用



- 1 ワイドパネル(16mm相当)／キャッチライトパネル
- 2 発光部
- 3 オートフォーカス補助光/スレーブセンサー
- 4 ロックリング
- 5 取付足
- 6 シュー接点ピン、ロックピン
- 7 外部端子
- 8 パイロットランプ(テスト発光ボタン)
- 9 電池カバー
- 10 電源ボタン
- 11 モード切替ボタン  
(TTL→マニュアル→SD→SF→ワイヤレスTTLリモート)
- 12 パワーレベル表示ランプ (6 LED)
- 13 セレクトボタン

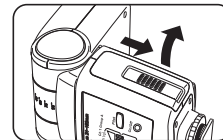
付属品: ミニスタンド、ポーチ

## ■基本操作

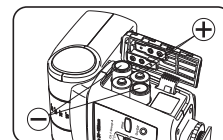
- 注意** ストロボ発光部の発熱や劣化を防止するため、連続発光は20回までに抑えてください。また、20回連続発光したあとは、10分以上休止してください。

### 電池の挿入

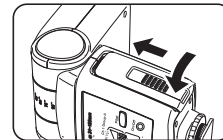
- 電池カバーを下にスライドして開きます。



- 電池ボックス内の図に従って、プラス/マイナスの向きを正しく挿入してください。



- 電池カバーを上スライドして閉めてください。



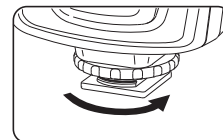
### 注意

- 間違った挿入を行ったり、サイズの異なる電池を入れたりすると本機が破損する恐れがあります。
- すべて同じ銘柄の新品の電池をご使用ください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッケル電池、ニッケル水素電池、リチウム電池もご使用できます。
- 使用しない時は電池を抜いて保管してください。

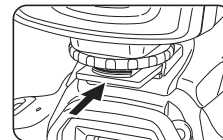
## カメラへの装着

### キヤノン用、ニコン用

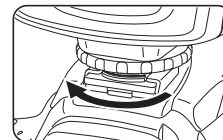
- 図のようにロックリングをまわして、緩めます。



- ロックリングを押しながらDi622 MARK IIの取り付け足をカメラのホットシューにしっかり差し込みます。

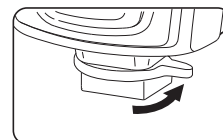


- ロックリングを図のようにまわし、カメラに固定します。

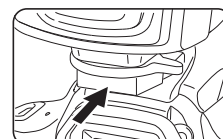


### ソニー用

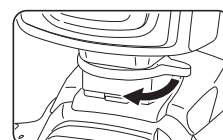
- ロックリングレバーを矢印の方向にまわして緩めます。



- ロックリングレバーを緩めたまま、Di622 MARK IIの取り付け足をカメラのホットシューにしっかり差し込みます。



- ホットシューの奥まで入ったらロックリングを戻します。ロックピンによりしっかり固定されます。



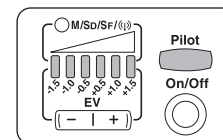
## カメラから取り外す

- ロックリングを緩めて、取付足をスライドさせて取り外します。

- 注意** ●装着する前や取り外す前には、必ずDi622 MARK IIの電源とカメラの電源を切ってください。

## ストロボの電源を入れる

- 電源ボタンを押すと電源が入ります。電源が入ると、パイロットランプが赤色に点灯します。



- 数秒後にパイロットランプが緑色に点灯すると、ストロボ撮影可能になります。
- テストのため、パイロットランプを押してテスト発光してください。
- フラッシュを使用しないときは、電源ボタンを約2秒間押し続けると電源が切れます。

## 省電力モード

電池の消耗を防ぐために、カメラがオートパワーオフ状態になってから約2分後に、自動的にスタンバイモードに入ります。スタンバイモードのときは、【TTL】ランプが、2秒間隔で点滅します。Di622 MARK IIのボタンを操作するか、または、カメラを半押しするとスタンバイモードから復帰します。なお、スタンバイモードに入って30分経過するとDi622 MARK IIは、オートパワーオフにより完全に停止します。この状態から再びDi622 MARK IIを起動させる場合は、電源を入れ直してください。モードをスレーブまたはワイヤレスTTLモードに設定している場合はDi622 MARK IIはスタンバイモードになりませんが、60分後にはオートパワーオフにより完全に停止します。

## 全自動撮影

### キヤノン用

カメラの撮影モードが[□]、[P]、[AV]、[TV]、[M]の時に、E-TTL II / E-TTL自動調光を行うことができます。

### ニコン用

カメラの撮影モードが[] (フルオート)、[P]、[A]、[S]、[M]の時に、i-TTL、i-TTL-BL自動調光を行うことができます。

### ソニー用

カメラの撮影モードが[]、[P]、[A]、[S]、[M]の時に、AID / P-TTL自動調光を行うことができます。

- モード切替ボタンが点灯していないことを確認します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- カメラのファインダー内の(フラッシュマーク)点灯を確認。
- シャッターを押すとストロボ撮影ができます。
- 焦点距離を変更すると、ストロボの照射角も連動して最適な角度に自動調整します。

### 参考

#### ●ストロボの照射角について

照射角は24mm相当から105mm相当まで連動します。24mm相当より広角の焦点距離をご使用の場合は、内蔵ワイドパネル(16mm相当)をご利用ください。105mm相当より望遠側の焦点距離をご使用の場合は、105mm相当の照射角でカバーできます。※照射角は、便宜上35mmフィルム用レンズの焦点距離を基準にしています。

#### ●撮影距離について

ストロボを使用しても撮影画像が暗い場合は、被写体に近づいて撮影するかまたは、カメラのISO感度を上げてください。

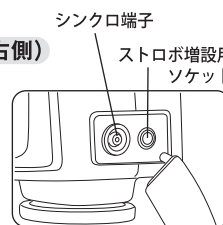
## 外部端子

### ●シンクロ端子(左側)

市販のシンクロコード(オス/オス)により、本機とカメラのX接点を接続することができます。また、市販のスレーブユニットも接続できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセットしてください。

### ●ストロボ増設用ソケット(右側)

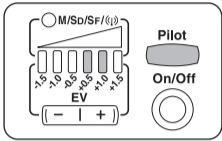
市販の3.5mmφミニジャック付きシンクロコードを使用し、本機に、シンクロ端子付きストロボを増設できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセットしてください。



## ■ ストロボ撮影をより楽しむために

### TTL調光補正

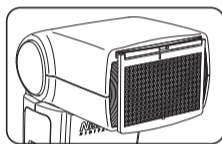
最新のTTL調光システムでは、ストロボ調光のレベルは、もっとも適正なレベルに調整されていますが、Di622 MARK IIでは調光レベルを微調整するために「調光補正」を行うことができます。「調光補正」、背景の露出を変えずに被写体の露出を微調整することが出来る便利な機能です。



- TTL調光補正は、1/2EVステップごとに-1.5 -1.0 -0.5 ±0 +0.5 +1.0 +1.5の7段階の調節が出来ます。
- パワーレベルランプのLED表示が点灯していない場合は、調光補正値は±0EVを表しています。デフォルト値は、±0EVです。
- セレクトボタンで好みの補正値を選んでください。セレクトボタンの+マークを押すと、+0.5→+1.0→+1.5と補正値が変化します。補正値を+側から±0側に戻す場合は-マークを押してください。-マークを押していくと、-0.5→-1.0→-1.5と変化します。補正値を-側から±0側に戻す場合は+マークを押してください。
- 撮影を行うと、選んだ補正値によりTTL発光を行います。被写体の露出のみが変わり、背景の露出は変化しません。
- カメラによっては、TTL調光補正はカメラのメニューモードで行うことが出来ます。カメラの調光補正値が設定されている状態で、Di622 MARK IIの調光補正を行った場合は、カメラの値に加えて補正が行われます。つまり、カメラが-1.0EV、ストロボが+1.5EVに補正された場合は、実質+0.5EVの補正となります。

### ワイドパネル

- 内蔵のワイドパネルを引き出して、図のように発光部の前に被せると、16mm相当の撮影画角に対応できます。
- 同時にキャッチライトパネルが引き出されますが、キャッチライトパネルは、押し戻してください。



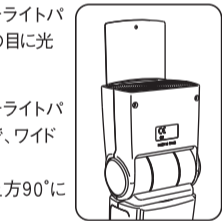
**注意** バウンス使用時には、ワイドパネルを収納してください。

**参考** ワイドパネルは光を拡散させる効果もありますので、ストロボ光をソフトにしたいときなどにもご利用できます。

### キャッチライトパネル

バウンス撮影時、近距離でキャッチライトパネルを使用すると、被写体の人物の目に光が差し込み、表情が明るくなります。

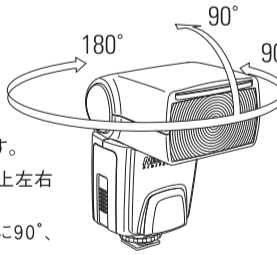
- ワイドパネルを引き出すとキャッチライトパネルも一緒に引き出されますので、ワイドパネルを押し戻してください。
- キャッチライトパネル使用時は、上方90°にバウンスさせてください。



### バウンス

主に屋内で、天井や壁などにストロボ光を反射させてバウンス撮影を行うと、被写体の不自然な影を和らげ、自然感じになります。

- フラッシュヘッドを手動で上左右方向に向きを変えます。
- ヘッドは、上方に90°、左に90°、右に180°回転します。



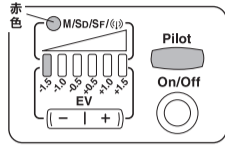
### 注意

- バウンス時、照射角は50mm相当に固定されます。
- 天井、壁までの距離が離れているときは、ストロボ光が十分に反射せず、効果を得られない場合があります。
- 天井や、壁の色が白でない場合は、反射光が影響を受けて着色する場合があります。
- バウンス時は、光が減衰します。効果が十分得られない場合は、カメラのISO感度を上げて撮影を行ってください。

### マニュアル発光

自動調光による露出では、自分の意図する露出が得られないとき、マニュアル発光により、任意の発光量を設定することができます。発光量は、1/1から1/32まで、1EVステップで設定できます。

- モード切替ボタンを押して、M(赤色が点灯)を選んで下さい。
- セレクトボタンを押して、任意のパワーレベルを選びます。
- パワーレベルは、左から順に大きくなります。1/32 - 1/16 - 1/8 - 1/4 - 1/2 - 1/1 (FULL)

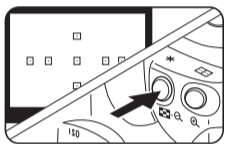


### オートフォーカス補助光

低コントラストの被写体や、暗所で撮影を行う場合、オートフォーカス補助光を被写体に自動的に照射し、合焦しやすくします。照射された赤色光は、撮影画像には写りません。

### FEロック キヤノン用のみ

背景と被写体の明るさが極端に異なる場合や、被写体が画面の中央部から外れているときなど、ストロボの自動調光が意図しない露光量に設定されることがあります。そのような時は、FEロックにより任意の部分の露出に合わせて調光させることができます。

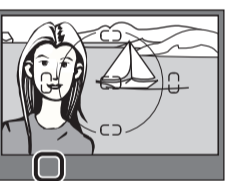


- 被写体にピントを合わせます。
- 被写体を中央に置き、カメラの【\*】ボタン(または、FELボタン)を押します。
- プリ発光を行い露光量が記憶され、ファインダー内に【\*】マークが点灯します。
- 撮影アングルを決め、シャッターを押します。

**注意** FELは、P、Av、Tv、M、A-Depモードで機能します。

### FVロック ニコン用のみ

背景と被写体の明るさが極端に異なる場合や、被写体が画面の中央部から外れているときなど、ストロボの自動調光が意図しない露光量に設定されることがあります。そのような時は、FVロックにより任意の部分の露出に合わせて調光させることができます。



- FVロック機能を使用するには、FVロック機能を持つカメラを使用します。
- シャッターを半押しして、被写体にピントを合わせロックします。そのまま、撮影アングルを決め、シャッターを押します。

### その他の機能 ニコン用

#### スローシンクロ

被写体と背景を両方とも適正露出で撮影するために、スローシャッターで、フラッシュ発光させることが出来ます。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。



#### 赤目軽減発光

撮影したときに被写体の目が赤くなる現象を防ぐために、Di622は赤目軽減発光を行うことが出来ます。カメラを赤目軽減発光モードにセットしてご使用ください。



#### 赤目軽減発光 + スローシンクロ

赤目軽減発光とスローシンクロは、組み合わせでご使用することが出来ます。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。



#### 後幕シンクロ

通常は、カメラのシャッター幕が開いた瞬間にストロボが発光する先幕シンクロによる発光を行います。カメラを後幕シンクロに設定すると、シャッター幕が閉じる直前にストロボが発光することが出来ます。これにより、動いている被写体の軌跡を自然に表現することが出来ます。



### その他の機能 ソニー用

**スローシンクロ** ※ニコン用と同じ機能になります。



**後幕シンクロ** ※ニコン用と同じ機能になります。



### ワイヤレス機能

Di622 MARK IIは、ワイヤレス同調を行うことが出来ます。この機能は、マルチライティングによるクリエイティブなストロボ撮影を可能にします。Di622 MARK IIのワイヤレス機能には3つのモードがあります。

**SD:** (緑色のモード) デジタルスレーブ  
デジタル一眼レフカメラのプリ発光を伴ったTTL調光システムにワイヤレス同調します。発光レベルは6段階あります。

**SF:** (青色のモード) アナログスレーブ  
フィルム一眼レフカメラや、スタジオストロボなど単発発光のストロボに同調します。発光レベルは6段階あります。

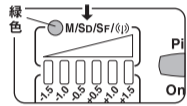
**(ℓ):** (紫色のモード) ワイヤレスTTLリモート  
ワイヤレスTTLのリモートストロボとして同調し、TTL発光を行います。マスターストロボのワイヤレスTTLモードをチャンネル1、グループAに設定して下さい。※ソニー用の場合は、チャンネル1、グループRMTに設定。

### ■ マスターストロボの設定

マスターストロボをカメラに装着し、電源を入れます。内蔵ストロボの場合は、ポップアップして、発光可能な状態にします。

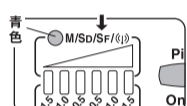
### ■ Di622 MARK II の設定 (スレーブ)

- モードボタンを押して、So(緑色が点灯)またはSf(青色が点灯)またはℓ(紫色が点灯)を選択してください。



#### 《SDまたはSFを選んだ場合》

- 最初に一番左側のLEDが点灯します。このときの発光レベルは、1/32です。
- セレクトボタン(+)を押していくと、パワーレベルは、左から右に順に大きくなります。1/32→1/16→1/8→1/4→1/2→1/1 (FULL)
- セレクトボタン(-)を押していくと、パワーレベルは、右から左に順に小さくなります。
- 設定した発光レベルは、電源がOFFになるまで、保持されます。



#### 《ℓ》(ワイヤレスTTLリモート)を選んだ場合》

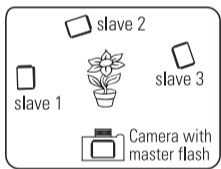
発光量はマスターストロボによって自動的に設定されます。Di622 MARK IIの設定は特に必要ありません。

### ■ マスターストロボとして使用できるもの

- 同じタイプのニッシンDi866または、Di866 MARK II。
- マスター機能を持つ純正ストロボ。
- カメラの内蔵ストロボで、コマンド機能を持つもの。

### ■ 撮影方法

- カメラの内蔵ストロボまたは、接続されている外付けストロボ(マスターストロボ)を発光可能な状態にします。
- スレーブストロボ(Di622 MARK II)を任意の場所に設置します。
- マスターストロボのテスト発光を行い、スレーブストロボの同調を確認します。
- スレーブストロボが同調すれば、撮影可能になります。



※被写体の周辺に設置できるストロボの数に制限はありません。  
※スレーブ時オートパワーオフ機能により60分後に電源オフになります。  
※スレーブ時はスタンバイモードには切り替わりません。  
※スレーブ時は、照射角は35mmに固定されます。  
※Di622 MARK IIの設置場所によっては、スレーブ同調しない場合があります。  
※金属製のアクセサリシューにDi622 MARK IIを取り付けると発光しない場合がありますので、ご注意ください。

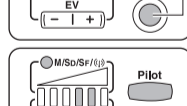
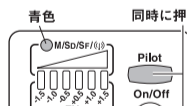
### ■ マイトTL設定

Di622 MARK IIのTTL調光レベルは、ニッシンストロボとして最適なレベルに調整されていますが、必要があれば自分好みの調光レベルにカスタマイズすることができます。調光補正の場合は、電源を切ると値がリセットされるのに対し、マイトTL設定の場合は、電源を切っても、電池を入れ替えても、補正値が保持され続けます。

### ■ マイトTL設定方法

- バイロットランプを押しながら電源ボタンを約3秒間押します。
- モード表示は青色、バイロットランプは黄色が点灯します。

- セレクトボタンの+または-を押して、調光レベルのカスタマイズを行ってください。調整範囲は、-0.75 -0.5 -0.25 ±0 +0.25 +0.5 +0.75で、1/4EVステップです。(マイトTL設定のときは、調光補正値として表示されている値と異なりますので、ご注意ください。)
- 好みのレベルに設定された状態で、電源を切ると設定レベルが記憶されます。



- 電源をONにすると、通常の基本操作が行えます。(調光レベルはカスタマイズされています。)
- 設定状態を確認したり、設定値を変更する場合は、もう一度、バイロットランプを押しながら電源ボタンを約3秒間押してください。

## ■ 主な仕様

使用カメラ	キヤノン製EOS デジタル一眼レフカメラ	ニコン製 デジタル一眼レフカメラ	ソニー製 デジタル一眼レフカメラ
ガイドナンバー	62 (ISO200, 照射角105mm相当のとき) 44 (ISO100, 照射角105mm相当のとき)		
照射角	24-105mm 相当 (内蔵ワイドパネル使用時16mm相当) オートパワーズームによりレンズ焦点距離に自動で連動		
電源	単3形アルカリ乾電池4本使用 (電池別売) ※単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池、単3形オキシライド乾電池使用可能		
発光回数	200~1500回 (アルカリ乾電池の場合) ※使用モードにより異なります。		
節電機能	カメラがオフになってから約2分後にスタンバイモード スタンバイモードから30分後に電源OFF ワイヤレス時に、無操作から60分後に電源OFF		
充電時間	約5秒 (アルカリ乾電池)		
調光方式	E-TTL II / E-TTL / マニュアル	i-TTL / マニュアル	ADI/P-TTL / マニュアル
ロック方式	FEロック[FEL]または [ℓ] ボタンによる	FVロック カメラの設定による	—
AF補助光	有効距離 0.7~6m		
色温度	5600K		
閃光時間	1/800秒 (フル発光時) 1/800~1/20,000秒 (TTL時)		
ワイヤレス発光	SD: デジタルスレーブ SF: アナログスレーブ (6発光レベル) (ℓ): ワイヤレスTTLリモート (チャンネル1、Aグループ) ※ソニー用はチャンネル1、グループRMT		
大きさ	77 X 130 X 103 mm		
質量	315 g (電池除く)		

※製品の仕様は、改良などにより予告なく変更することがあります。

## ■ ガイドナンバーテーブル (ISO 100)

焦点距離	パワーレベル					
	Full	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32
24mm	25	18	12.7	9	6.4	4.5
28mm	28	20	14	10	7	5
35mm	32	22	16	11	7.8	5.5
50mm	35	25	18	12.7	9	6.4
70mm	38	27	19	13.5	9.5	6.7
85mm	41	29	20	14	10	7
105mm	44	31	22	16	11	8

## ■ トラブルシューティング

### ストロボがチャージしない。

- 電池の向きを確かめて、逆向きになっている場合は、正しく挿入してください。
- 電池が消費していないか確認して、消費している場合は、新しい電池を入れてください。

### ストロボが発光しない。

- ストロボがカメラにしっかりと固定されてない場合は、奥までしっかりと装着して、ロックリングで固定してください。
- ホットシュー接点が汚れている場合は、接点を乾いた布で拭いてください。
- オートパワーオフ機能により電源OFFになっている場合は、電源を入れなおしてください。

### 写真が露出オーバーまたは、アンダーになる。

- 被写体の近くに反射物などがあって、正常に調光されない場合は、FEロック機能を使用してください。
- モードを確認してマニュアルモードになっている場合は、<TTL>モードに設定してください。

### 電源が切れない。

- スレーブ時に電源ボタンを押してもOFFになりません。一度ボタンを押して、通常モードに復帰してから電源ボタンを約3秒押しとOFFになります。

★最新カメラへのファームウェアアップデート サービス (有償) やファームウェア対応状況に関するお問い合わせは、ニッシンホームページ、または、お問い合わせ窓口をご利用ください。

ホームページ: [www.nissin-japan.com](http://www.nissin-japan.com)  
TEL: 03-5336-4712